



生活路線バス再編の取組み

計画作成、事業の実施、評価・検証、改善について

栃木県足利市

足利市生活路線バスについてはWEBをご覧ください

<http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/page/koukyoukoutsu.html>

足利市の紹介

人口148,421人(平成28年12月1日現在)

栃木県の南西部に位置し

◎日本遺産に認定された
日本最古の学校「足利学校」

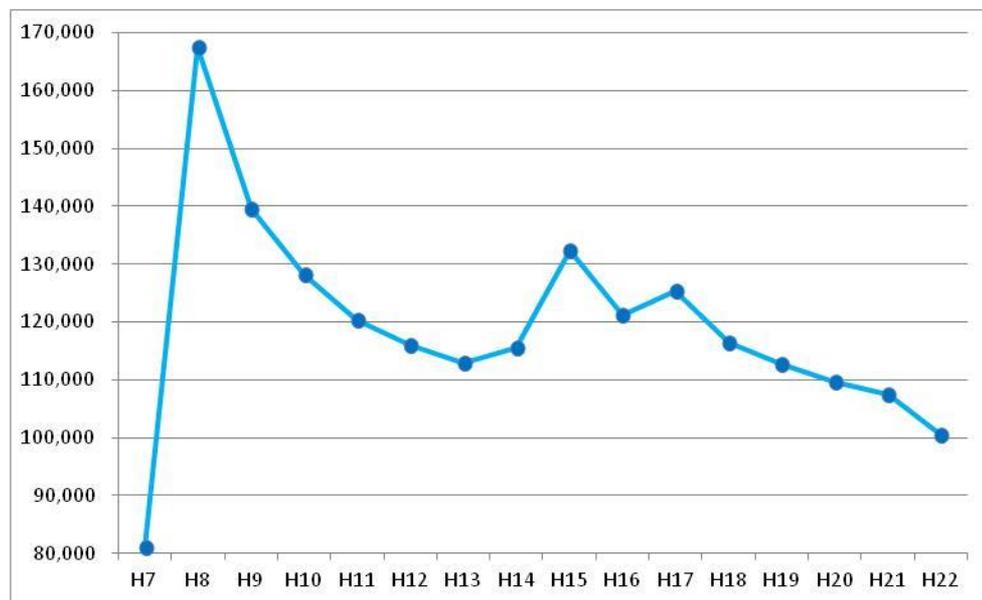
◎100回の歴史を数える
足利花火大会(毎年8月第一土曜日開催)

などが有名(他にも、みどころ盛りだくさんです)



足利市の公共交通について

- ・以前は、民間路線バスが高頻度で運行していた。
- ・平成7年、利用者減少により、全ての路線が廃止となる。
- ・廃止代替としてコミュニティバスの運行を開始するも、利用者は減少し続ける。



足利市生活路線バス利用者の推移 単位:人

【背景】

モータリゼーションの進展
自動車利用によるバス離れ
原因はそれだけなのか

平成7年10月運行開始
平成7年度は10月からの6カ月実績
平成15年度 新たに2路線運行開始
平成17年度 均一運賃(200円)導入
※見直し実施前の平成22年度まで

現状把握を行い課題を確認

◎運行内容の検証

4路線を3台で運行

小俣・行道線 29.7km 1台で運行

松田・富田線 35.3km 1台で運行

山辺・中央循環線 14.8km

御厨循環線 28.6km

} 2路線を1台で運行

課題

3台のバス車両で距離の長い4路線を運行していたことから、運行回数は2～4回/日といずれの路線も少なく行動時間が運行ダイヤに合致する特定の人以外は**利用しづらい状況**となっていた。

現状把握を行い課題を確認

◎OD調査

停留所ごとや時間帯別の利用状況を確認

◎市民アンケート

日常の交通手段、主な外出先を確認

◎その他

駅利用者アンケート、駅利用者カウント調査

高校生アンケート、病院利用者ヒアリング調査等を実施

課題

需要の多少に関わらず路線全体が同じ運行間隔だったため利用者本位の運行サービスが実現できていなかった。その他、要望に対する考え方や、運行事業者が利用者増加に向けた努力を促す契約制度などの課題を整理

見直しの基本方針

平成23年に「足利市地域公共交通総合連携計画」を作成し、課題を踏まえ、基本方針を定めた。

- ・市民や来訪者に「結構使えるね」と思ってもらえる公共交通サービスの「品質保証」を進める。
- ・民間廃止代替バスの対処療法的な運行から脱却し、足利市活性化の起爆剤とする。
- ・日常生活に欠かせない「通院」「買物」「通学・通勤」に使える公共交通サービスの「性能保証」を提供する。
- ・公共交通の持続性を高めるため、地域と行政が協働で守り育てる施策を推進する。

基本方針実現のための事業

◆距離の長い路線を運行していたため、利用しづらい

◆需要の多少に関わらず路線全体が同じ運行間隔

このことから

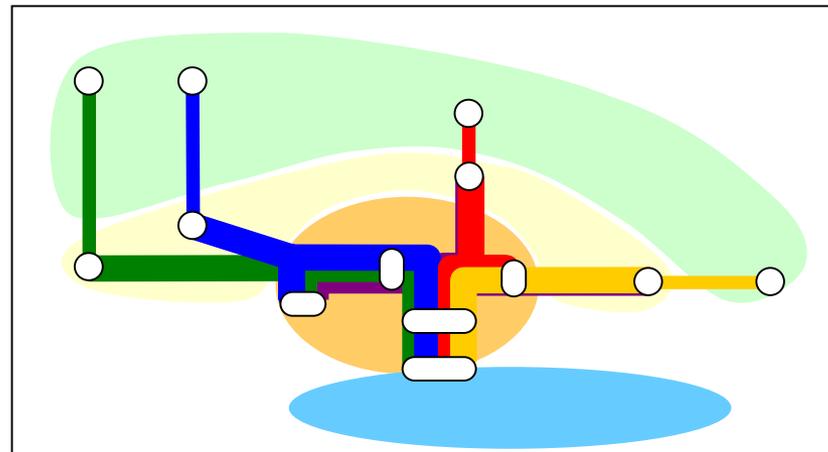
利用しづらく、利用者本位の運行サービスが実現できていなかった

これらを改善するため

- ・「広く・薄く」の公共交通ネットワークから「公共交通軸」を明確にしたネットワークへの転換
- ・路線、系統の再編
- ・人口密度及び施設配置を踏まえ、市内を4つの地域に区分
- ・地域ごとに目標を定め、運行サービスの段階構成を導入
- ・主要施設までは乗換無しで利用できる運行とし、利便性を確保

基本方針実現のための事業

- ◎バス3台から、バス5台ワゴン車3台計8台の運行とする
- ◎折返し便を設定し、需要が高い地域の運行頻度を上げる
- ◎需要が低い地域でも、通院・買物等日常生活の移動に利用できるダイヤを設定
- ◎帰宅利用が多い時間帯では、デマンド運行に切替
運行の効率化を図る



路線・系統再編による運行サービスのイメージ

基本方針実現のための事業

■ 4路線を3台で運行

小俣・行道線	29.7km	2系統	上り4便	下り4便
松田・富田線	35.3km	2系統	上り4便	下り4便
山辺・中央循環線	14.8km	1系統	左回り2便	右回り2便
御厨循環線	28.6km	2系統	左回り3便	右回り3便

■ 8路線を8台(バス5台、ワゴン車3台)で運行

小俣線	23.7km	3系統	上り 9便	下り10便	
松田線	22.2km	2系統	上り 6便	下り 7便	
行道線	10.2km	3系統	上り11便	下り11便	
富田線	18.9km	3系統	上り 7便	下り 7便	
山辺線	23.7km	2系統	左回り3便	右回り3便	デマンド3便
御厨線	41.5km	3系統	左回り2便	右回り2便	デマンド3便
中央循環線	12.5km	1系統	左回り2便	右回り2便	
名草線	19.9km	4系統	上り 4便	下り 4便	



路線・系統を
再編

基本方針実現のための事業

利用してもらうためには、わかりやすさも重要

◎駅、病院を経由する便には、ピクトグラムを表示



ピクトグラムを表示したバス車両前方にあるLED行き先表示イメージ

基本方針実現のための事業

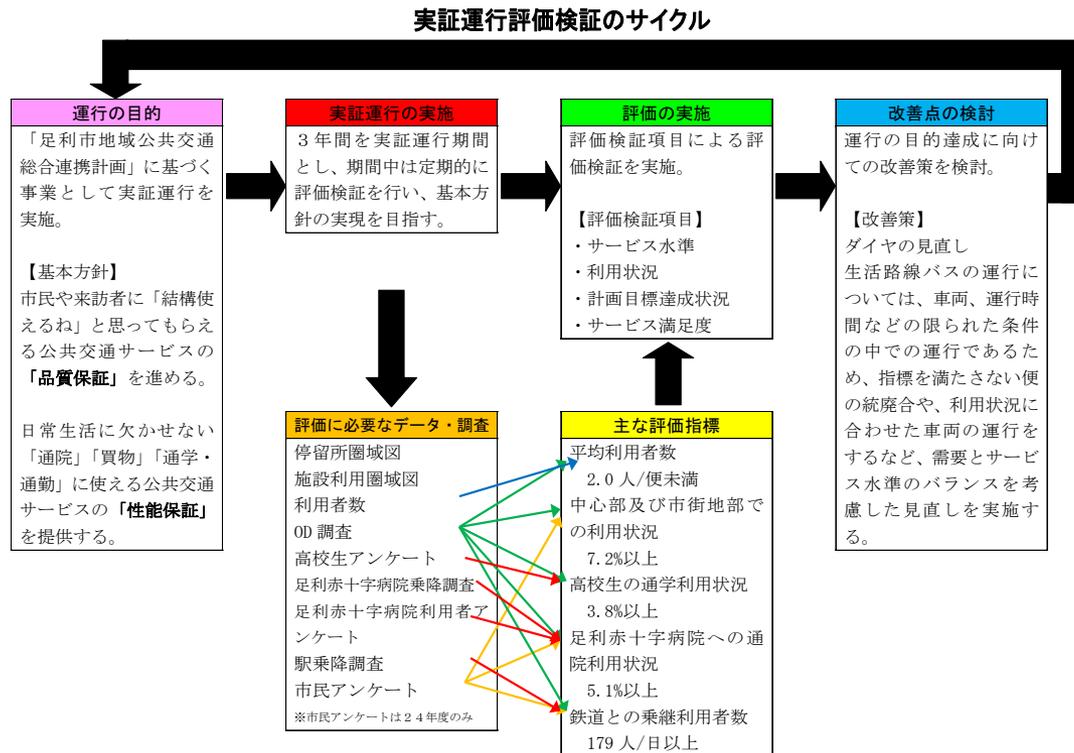
- ◆市内には、民間路線バスの運行がないことから、コミュニティバスを公共交通軸と位置付け行政が主体となり運行している。
- ◆需要の多少に関わらず、延伸などの要望に対し、コミュニティバスと同じ仕組みで対応することは困難である。

地域が主体となり、協働により、移動手段確保に向けた取り組みができるよう仕組みづくりを進めている

地域の状況、課題を明確にして、課題に適した移動手段が確保できるよう、地域、市が協働により取り組む

事業の評価・検証と改善

見直し実施後も、目標の達成状況や事業の状況を評価検証するため、各種調査を定期的の実施し、改善を図った。



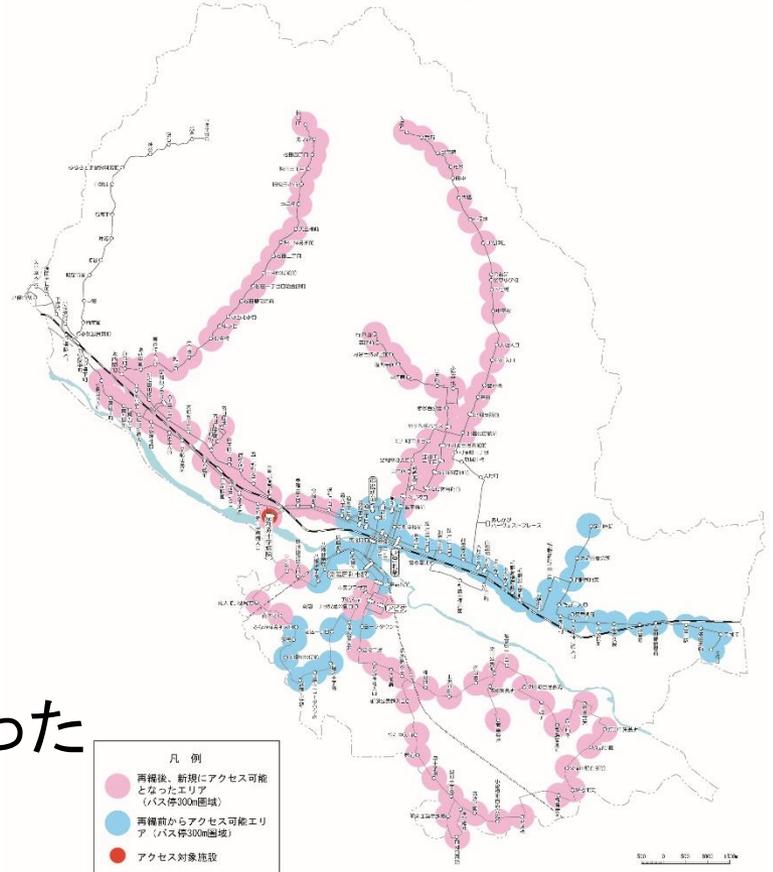
実証運行時の評価検証サイクル(PDCAサイクルイメージ)

事業の評価・検証と改善

評価検証項目のひとつとして、通院(病院の外来受付時間)に利用することができるかを検証

この検証により
小俣線の一部区間で利用できない
ダイヤとなっていた

どの路線からも
病院の外来受付時間に間に合うよう
ダイヤ改正を行い利便性の確保を図った

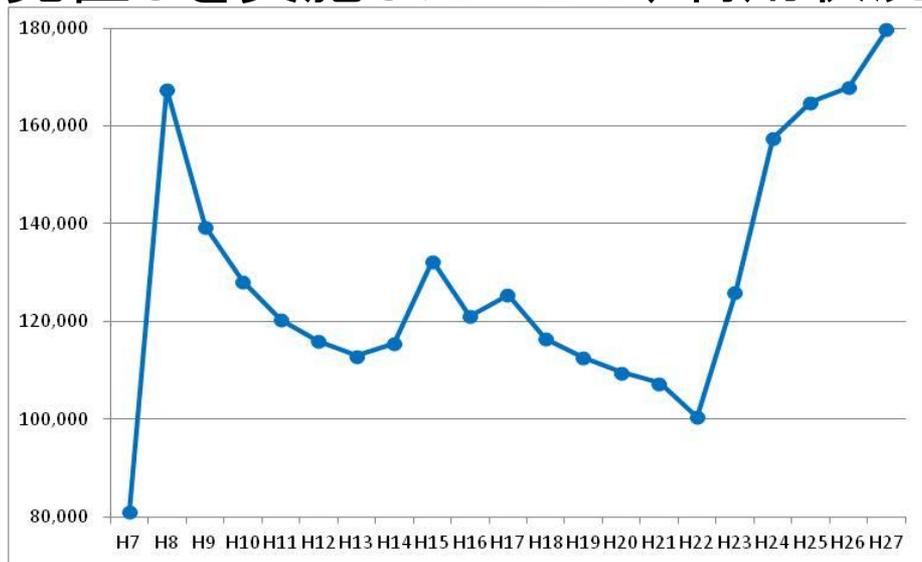


足利赤十字病院へのアクセス可能圏域(平日)

取組後の状況

平成23年7月から平成26年9月まで実証運行を実施
約3年の間に5回の運行計画の改善を行い、本格運行へ移行

見直し前は利用者の減少が続いていたが
見直しを実施したことで、利用状況の改善が見られた



足利市生活路線バス利用者の推移 単位:人

見直し前と比べ
180%増

取組後の状況

見直しの効果で利用者は増加しているが
市内の移動手段に関する課題は存在している

- ◆バスが運行されていない地域からの要望
- ◆停留所まで歩いて行くことが難しい人への対応

バスが運行されていない地域への対応は、地域が主体となり協働により進められるよう、取り組んでいる。

それに加え、個別のニーズに応えるためには、小さな交通が有効であると考え、タクシー事業者との意見交換会を設け市内の移動手段充実に向け取組を始めたところである。

市民、運行事業者、市、全ての関係者が参画して一緒に移動手段について考えていけるよう、取り組んでいきたい。